niu

XEAM

取扱説明書

NQiGT

Ver.01

2020 年 2 月発行

(当製品の取扱説明書の最新版は弊社 HP からダウンロードしてご確認ください。)

目次

	ページ数
はじめに	1
安全上の注意	2
走行の前に	3
アプリのダウンロード方法	6
各部名称	7
ダッシュボードディスプレイ情報	9
操作方法	12
バッテリーの使用とメンテナンス	19
運行前点検	24
メンテナンスと修理	26
定期メンテナンスチェックリスト	29
トラブルシューティングリスト	30
製品仕様	33

この度は、NQi GTをお買い上げいただきありがとうございます。
本マニュアルではNQi GTの正しい取り扱い方法や安全運転のしかたなどについて説明しています。万一、取り扱いを誤ると重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。運転される前に必ずこのマニュアルをお読みください。

はじめに

お願い
・操作前に取扱説明書（ 以降はユーザーマニュアルと表記 ）の遵守事項を読んでください。このマニュアルの指示に従わなかった場合、傷害、財産損傷の恐れ、または保証が無効になる場合があります。 ・安全運転および交通ルールを守り、他の人も安全に通行できるように配慮してください。 ・乗車の際は PSC または SG,JIS マークのある二輪車用ヘルメットを必ず着用してください。 ・安全のため、乗る前に本ユーザーマニュアルに従って部品の状態を確認してください。問題が発生した場合は、販売店へご相談ください。 ・道路交通法に従ってください。悪天候時の路面は滑りやすく制動距離が延びます。安全のために速度を落として走行してください。 ・水位がホイールアクスルに達した場合は、モーター、バッテリー、その他の部品が錆びたり故障することがあります。 ・ご自身でスクーターを分解しないでください。部品の交換または購入については、販売店にお問い合わせください。 ・第三者の安全のために、免許を持たれていない方やスクーターを操作できない方に車輌を貸さないようにしてください。 ・NQi GT は 1 人または 2 人用に設計されています。 ・NQi GT はオフロード用に設計されていません。 ・本ユーザーマニュアルは、NQi GT の恒久的な文書とみなす必要があります。 ・NQi GT を他者に譲渡する場合、本ユーザーマニュアルもお渡しください。 ・本ユーザーマニュアルを正しくお守りください。

このユーザーマニュアルの複製または転載は固く禁じられています。

このマニュアルを必ず読み、いつでも参照できるよう大切に保管してください。

本ユーザーマニュアルでは、正しい取扱に関する重要事項を下記のシンボルマークで表示しています。

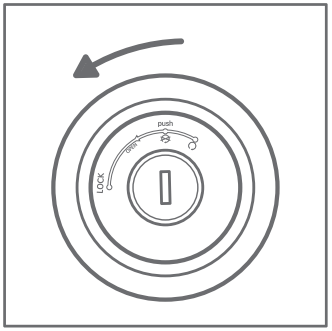
⚠ 警告	この指示に従わなかった場合、死亡、重症、傷害に至るおそれがあります。
⚠ 注意	この指示に従わなかった場合、機械が破損するおそれがあります。

安全上の注意

- ヘルメット以外にゴーグルやグローブの着用を推奨いたします。
- 運転操作に慣れるまでは、交通量の少ない安全な場所で練習を行ってください。
- NQi GT を正しくお使いいただくため、「P12~P18 操作方法」に従い操作方法を完全に理解してください。
- 悪天候時の制動距離は通常より長くなるため、コントロールを失い傷害、死亡、財産の損傷につながる危険があります。注意して走行してください。
- 曲がる時は必ず減速してください。スピードを出したまま曲がるとコントロールを失い、死亡事故等の原因になる場合があります。傾斜した路面で曲がると転倒の危険が高まります。バイクがコントロールできるようになるまで安全な場所で曲がる練習等を行ってください。
- 鉄道のレール、トンネル、橋、ペイントマーカー、マンホール等の走行は特に注意が必要です。
- ハイビームを常用しないでください。対向車や歩行者の視界の妨げになる場合があります。
- 走行中にスマートフォンや携帯電話、その他電子機器を使用しないでください。
- レーンチェンジを不必要に行わないでください。事故の原因となります。車線を変更する必要がある時は、最初にターンシグナルインジケーターをオンにしてください。常に後ろから接近している車両をチェックしてください。
- NQi GT が異常な騒音や振動を発したら直ちに停止し、電源を切ってバイクの損傷を確認してください。異常な騒音や振動は部品の紛失または摩耗のサインです。
- NQi GT をあらゆる競技やレース等に使用しないでください。傷害や損害をもたらす恐れがあります。
- アルコール、薬物、医薬品の影響下にある間は乗車しないでください。お客様自身または周りの方々に危険を及ぼします。また、上記の状態の運転は法律で禁止されています。
- NQi GT の運転前にエアゲージを使用してタイヤの空気圧を確認してください。

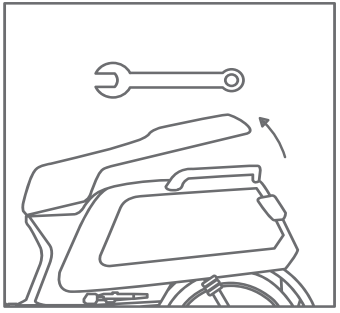
走行の前に

①メインロックにキーを挿入し、右の図の示すように“OPEN”の方向にキーを回します。



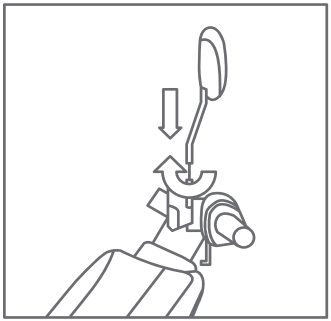
②シートを開いて、キーボックス、フロントガラスパッケージ（ゴムパッドと標準パーツ付き）、および取り付けツールを取り出します。

リアストレージの鍵穴にキーを挿入した後回し、バッテリーコンパートメントを開きます。充電器とバックミラーパッケージを取り出します。



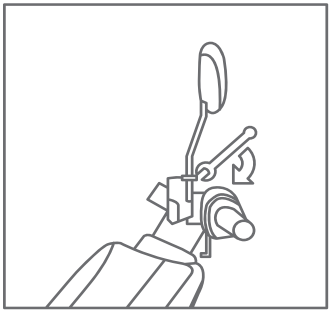
走行の前に

③バックミラーを取り出して注意深くチェックしてください。
左のバックミラーを左のブレーキレバーの取り付け穴に取り付けて時計回りに回します。ボルトは 15mm 以上ねじ込みます。



④バックミラーを適切な位置に調整してから、スパナでバックミラーのナットを締めます。ダストカバーを適切にセットします。

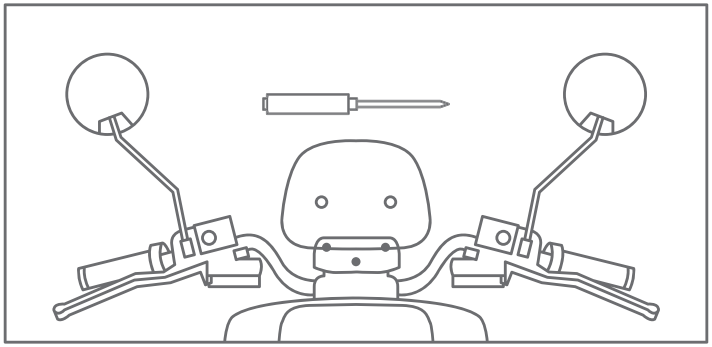
同じ方法で右バックミラーを取り付けます。



走行の前に

⑤ウインドシールドのゴム部分をフロントガラスの穴に合わせて取り付けます。

⑥ドライバーで 2 本のネジを締めてウインドシールドを固定します。



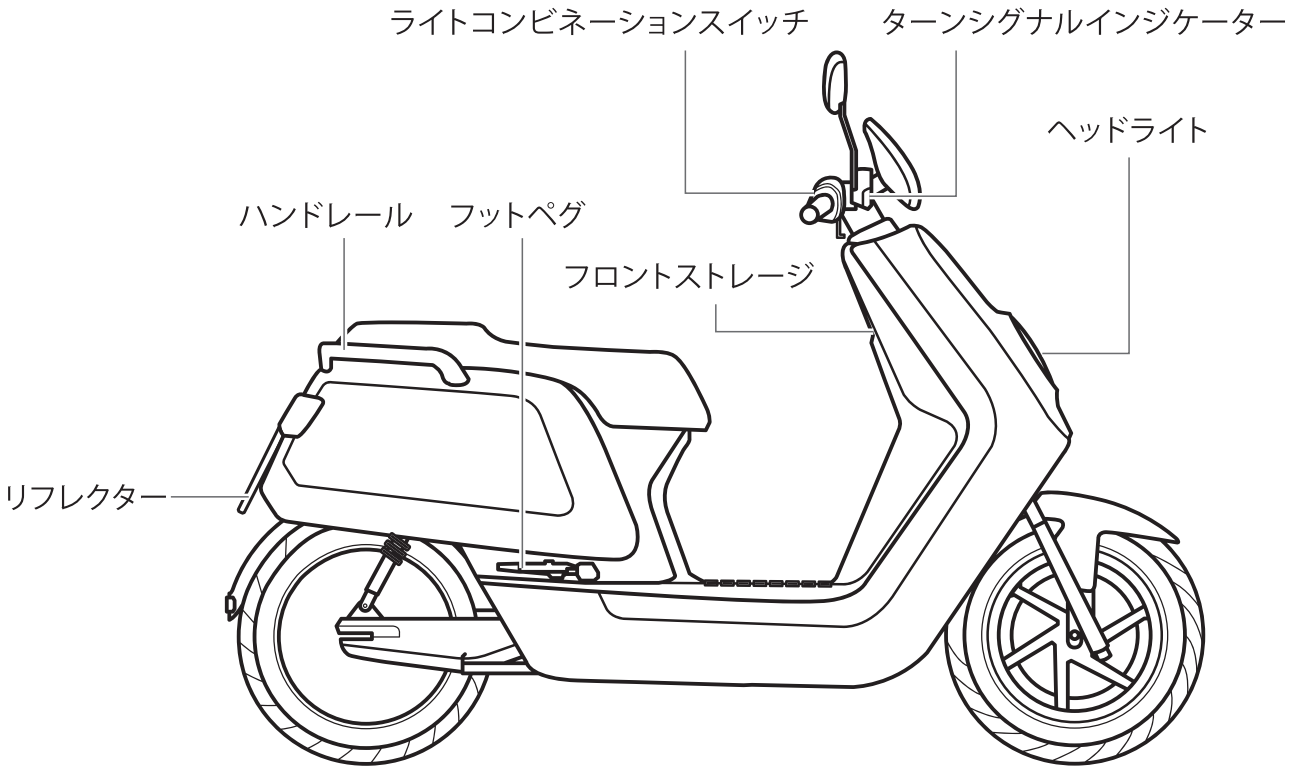
アプリのダウンロード方法

アプリを使用することにより、バッテリーレベルの確認、検索、管理などの機能を使用することが出来ます。

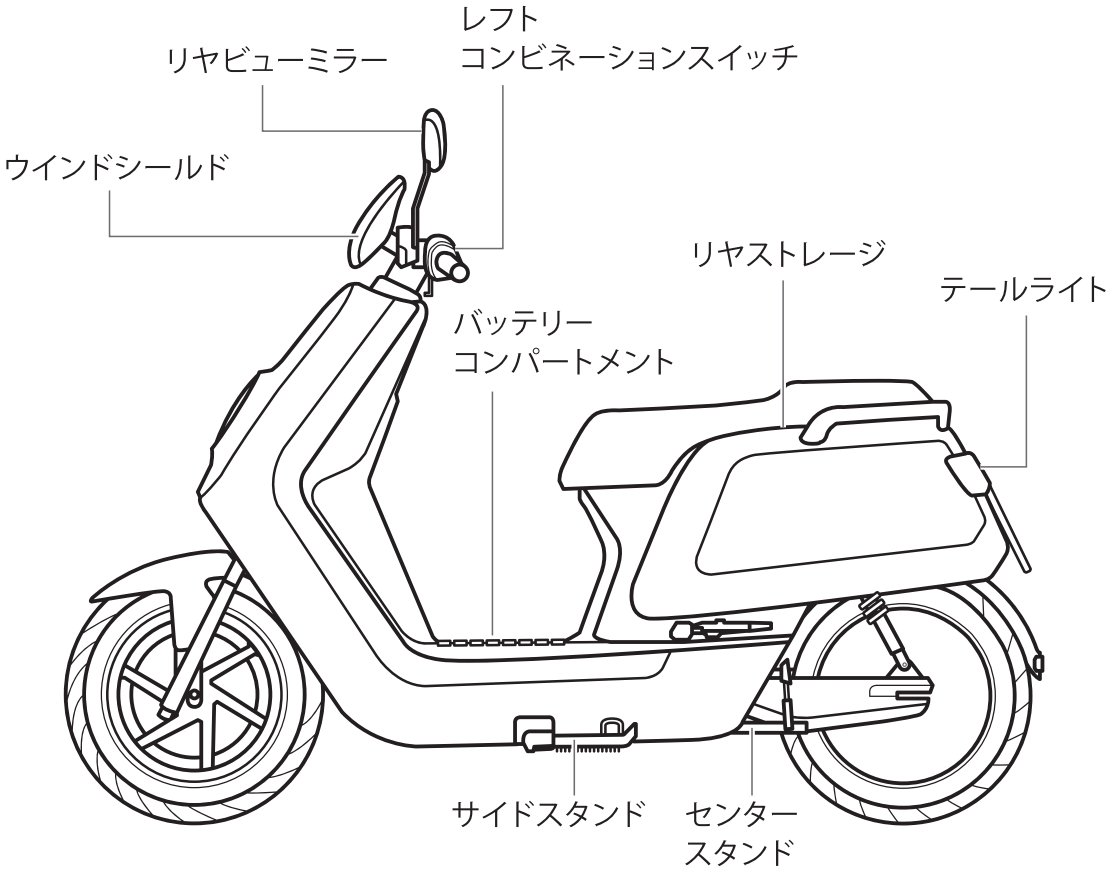
①以下の QR コードを読み取り、「Niu E-Scooter」というタイトルのアプリをダウンロードします。
②ダウンロードして登録した後、セットアップを実行します。
③カバーページの内側にあるアプリの QR コードを読み取ってください。
※携帯電話システムには、Android 4 または iOS 8 以上が必要です。アプリの実行時に携帯電話がインターネットに接続されていることを確認します（Wi-Fi / 26 / 3G / 4G）。
※通信料はお客様のご負担となります。

Niu E-Scooterの
ダウンロードはこちら

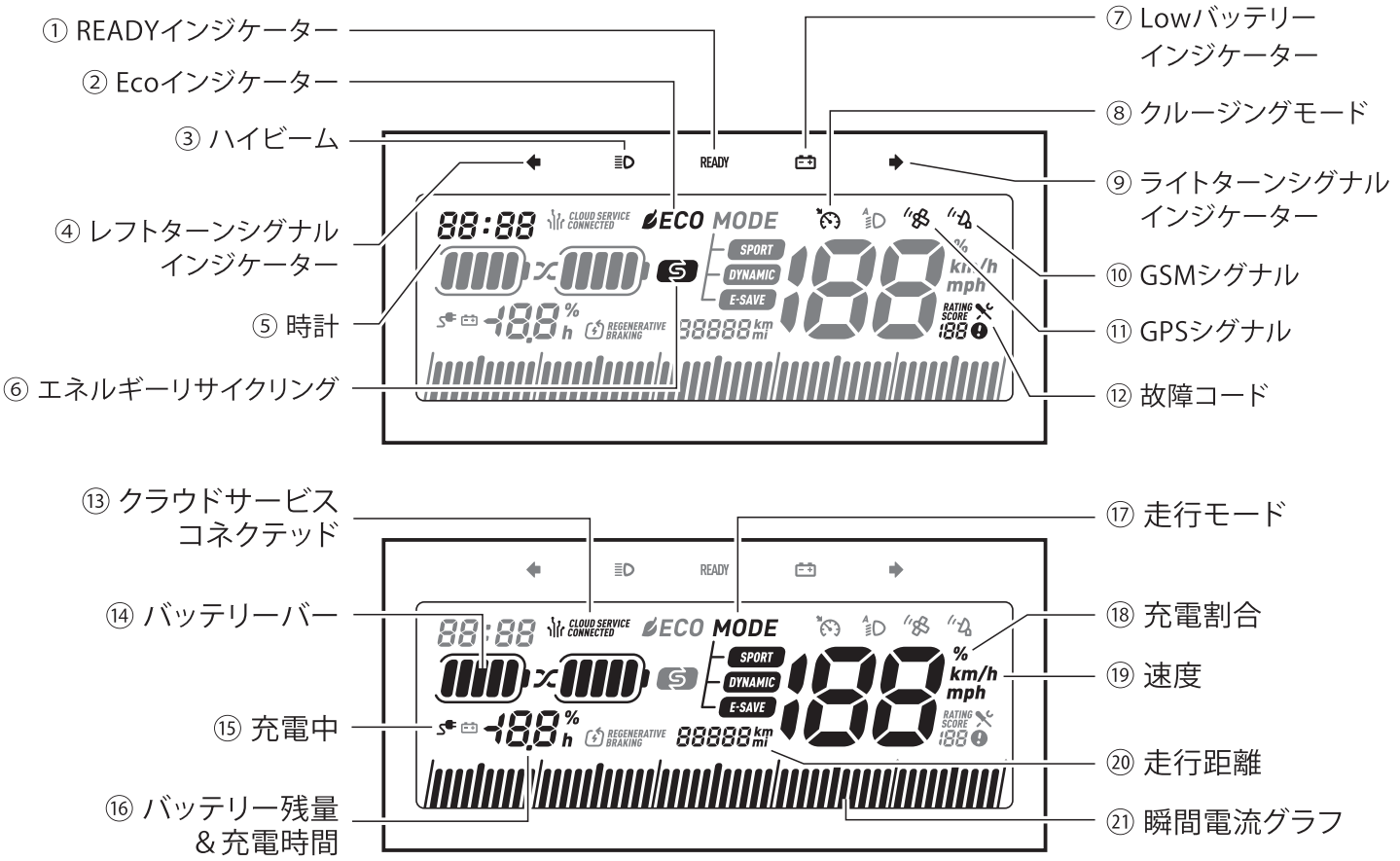
各部名称


ライトコンビネーションスイッチ
ターンシグナルインジケーター
ヘッドライト
ハンドレール
フットペグ
フロントストレージ
リフレクター

各部名称


リヤビューミラー
レフト
コンビネーションスイッチ
ウインドシールド
リヤストレージ
テールライト
バッテリー
コンパートメント
サイドスタンド
センター
スタンド

ダッシュボードディスプレイ情報



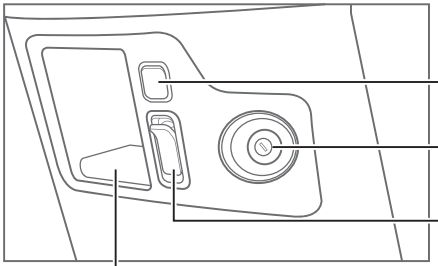
ダッシュボードディスプレイ情報

番号	アイコン	名称	説明
①	READY	READYインジケーター	走行可能の状態で表示される
②	ECO	Ecoインジケーター	バッテリー消費状態が良好な時に点灯する
③		ハイビーム	ハイビームが点灯している状態で表示される
④		レフトターンシグナルインジケーター	左の方向指示器が点灯する
⑤	10:00	時計	現在時刻を表示
⑥		エネルギーリサイクリング	回生ブレーキで充電中の時に表示する
⑦		Lowバッテリーインジケーター	バッテリー残量が10%未満の時に点灯する
⑧		クルージングモード	スクーターはクルーズモードです
⑨		ライトターンシグナルインジケーター	右の方向指示器が点灯する
⑩		GSMシグナル	点滅なし：信号が強い バッテリーバーが点滅している：信号が弱い アイコン全体が点滅：信号なし
⑪		GPSシグナル	
⑫	30	故障コード	診断コード30 詳細についてはP29-30を参照してください

ダッシュボードディスプレイ情報

番号	アイコン	名称	説明
⑬		クラウドサービスコネクテッド	クラウドに接続されていると点灯する
⑭		バッテリーバー	現在の電池残量
⑮		充電中	充電中に表示される
⑯		バッテリー残量	電池残量をパーセンテージで表示する
		充電時間	満充電までの充電時間を表示する
⑰		走行モード	選択した走行モードを表示する SPORTモード　：約70km/h DYNAMICモード：約45km/h E-SAVEモード　：約20km/h
⑱		充電割合	現在の充電割合を表示する
⑲		速度	現在の速度を表示する
⑳		走行距離	走行距離数を表示する
㉑		瞬間電流グラフ	瞬間電力を表示する

操作方法



フロントストレージエリア

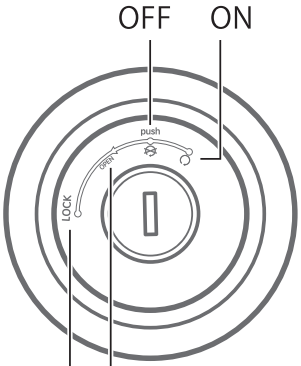
①USBチャージングポート

②メインロック

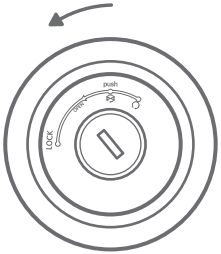
③フック

④フロントストレージ

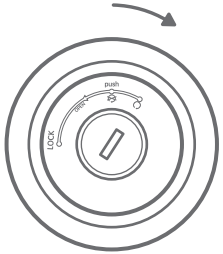
メインロックについて



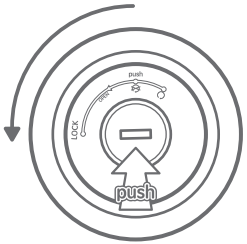
シートを開ける



スクーターを起動する



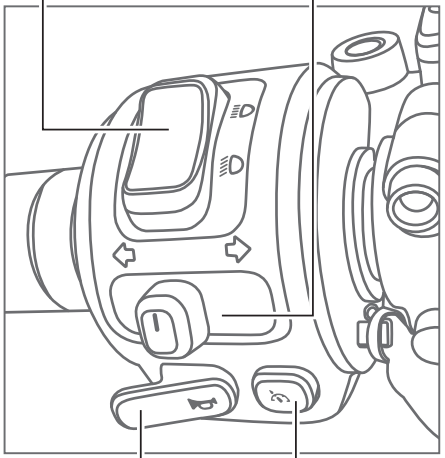
ハンドルを左に切り、キーを
挿入した後、押しながら回すと
ハンドルロックされる



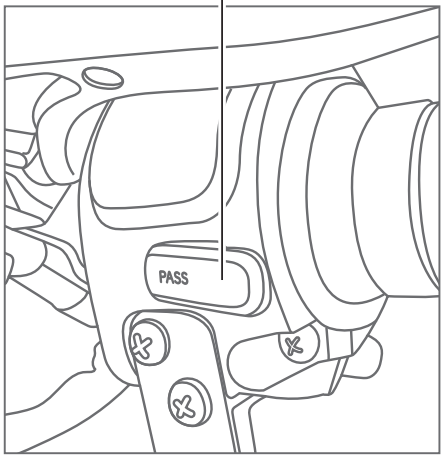
操作方法

レフトコンビネーションスイッチ

表面



裏面

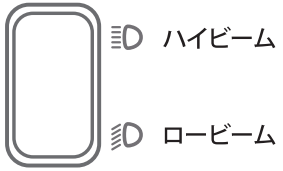


操作方法

各ボタンの説明

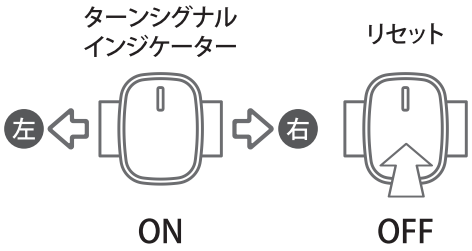
① ハイビーム / ロービーム切り替え

上部 (≡D) のボタンを押すと、「 **ハイビーム** 」がオンになります。
下部 (≡D) のボダンを押すと、「 **ロービーム** 」がオンになります。



② ターンシグナルインジケーター (方向指示器)

ボタンを左側に押すと、レフトターンシグナルインジケーターが点灯します。
ボタンを右側に押すと、ライトターンシグナルインジケーターが点灯します。
消灯する際は、ボタンを押し込んでください。



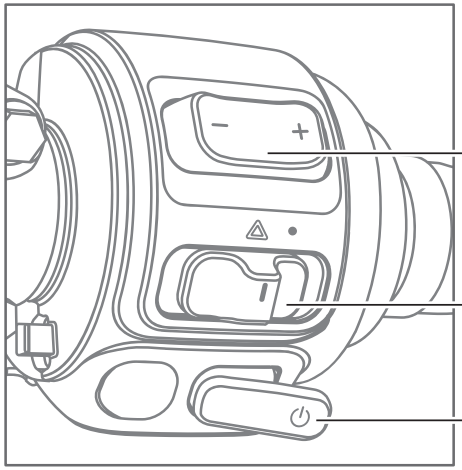
④ クルーズコントロール

現在の速度を保ちながら走行するには、クルージングモードボタンを押します。
オフにするには、もう一度押すかスロットルを回す、またはブレーキをかけます。

⑤ パッシング

前走車に追い越しを知らせる際は、 レフトコンビネーションの裏側にあるボタン (**PASS**) を継続的に押すことで、ライトがフラッシングします。

操作方法



ライトコンビネーションスイッチ

①モードセレクター

②ハザードライトスイッチ

③スタートボタン

各ボタンの説明

①モードセレクター

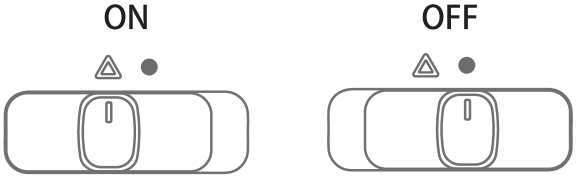
右側(＋)を押すと、現在よりモードより速いモードに切り替わります。
左側(－)を押すと、現在のモードより遅いモードに切り替わります。

※左側(－)のスイッチは、停車時かそれぞれのモードで出せる速度以下になってから操作してください。スピードが高いまま操作すると、車輌の破損もしくは転倒など重大な事故に繋がる可能性があります。

※バッテリーを1台のみ接続した場合や、2台接続した際に両方の電圧差が７％以上ある場合は、SPORTモードを選択することが出来ません。また、バッテリーの接続数に関係なく残量が15%以下の場合、E-SAVEモードのみしか選択できません。

操作方法

各ボタンの説明



左に押すとハザードライト
スイッチがオンになる

もう一度左に押すと
スイッチがオフになる

②ハザードライトスイッチ

スイッチを左に押すとハザードライトがオンになります。
もう一度スイッチを左に押すとオフになります。
※スイッチは押した後、自動的に●の位置に戻る仕様に
なっています。

---

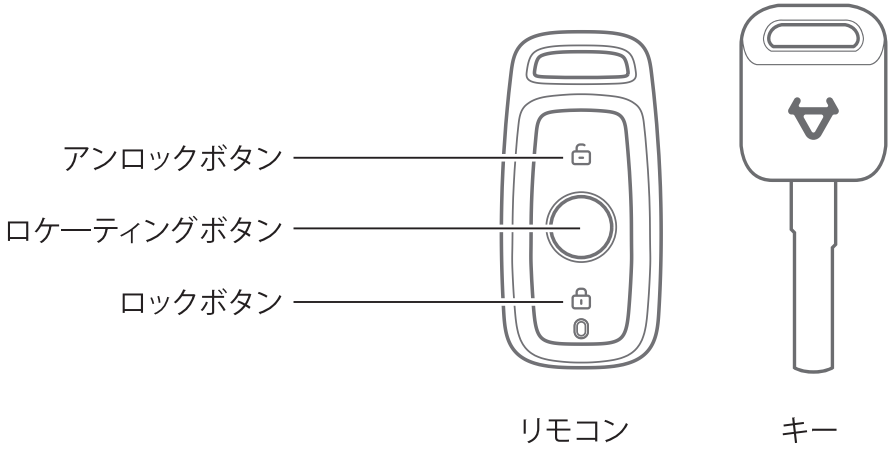
③スタートボタン

ダッシュボードの「 **READY** 」が点灯すると走行可能状態になります。
ボタンをもう一度押すとパーキングモードになります。

操作方法

スクーターを始動する

①リモコンのアンロックボタンを押します。ターンシグナルインジケータが 2 回点滅した後、スクーターのロックが解除されます。
②スクーターのロックが解除されたら、キーをキーホールに挿入し、時計回りに ON の位置まで回します。
③システム診断後、ブレーキをかけながらスタートボタンを 2 秒間押します。
④ READY インジケーターが点灯します。ブレーキを解除すれば走行できます。



操作方法

ステアリングハンドルバーをロックする

ステアリングハンドルバーを左に回した後、キーを押し込み反時計回りにロック位置に回します。

リモートコントローラーでロックする

スクーターの電源がオフになっている場合にのみロックできます。
有効距離内でリモートコントローラーのロックボタンを押して、アラームをオンにします。
スクーターが適切にロックされた後、ターンシグナルインジケータが 2 秒間点灯します。

ロケーティング

ロケーティングボタンを押すと、ウインカーインジケーターが 10 秒間点滅します。
この期間中に操作が行われない場合、アラームが 10 秒間オンになります。
アンロックボタンまたはロックボタンを押すと、アラームをキャンセルできます。

バッテリーの使用とメンテナンス

使用環境

① 漏れ、過熱、喫煙、火災、または爆発を防ぐため、次の指示に従ってください。
② バッテリーは、-10°C～45°C の温度で使用する必要があります。
③ 水、飲料、または腐食性液体にさらさないでください。
④ 熱源、直火、引火性および爆発性のガスおよび液体から遠ざけてください。
⑤ バッテリーコンパートメントから金属部品を遠ざけてください。

バッテリーから異臭、過熱または変形が起こった場合、直ちに使用を中止してください。
バッテリーを可燃物から遠ざけ、ディーラーに連絡してください。

⚠ 警告	**バッテリーは購入者様が修理可能な部品ではありません。** **バッテリーを分解すると漏れ、発熱、煙、火災、爆発の恐れがあります。** **自己判断でバッテリーを開けたり修理しないでください。保証が無効になります。**

バッテリーの使用とメンテナンス

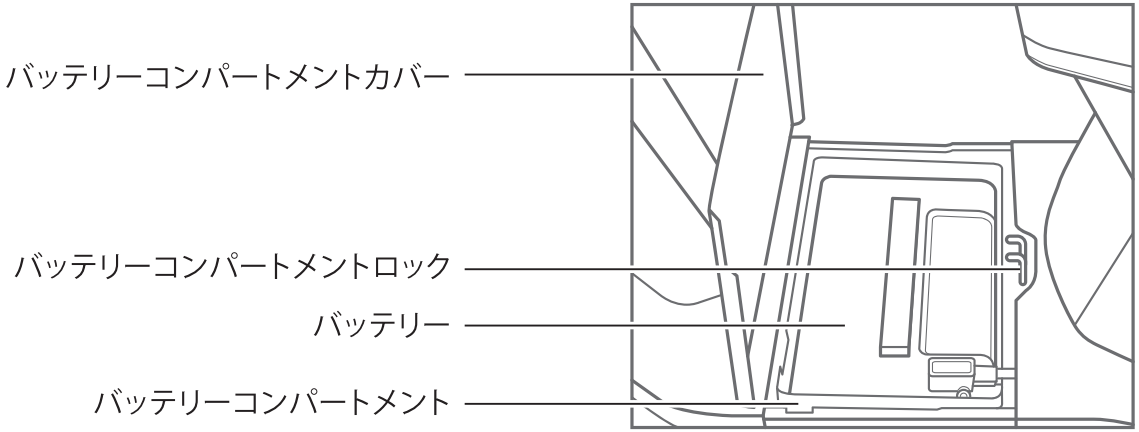
充電環境

バッテリーは 10°C ～ 35°C の温度で充電してください。

過充電はバッテリーの寿命を短くするため、充電時間は 24 時間を超えないでください。

バッテリーを屋外で充電しないでください。

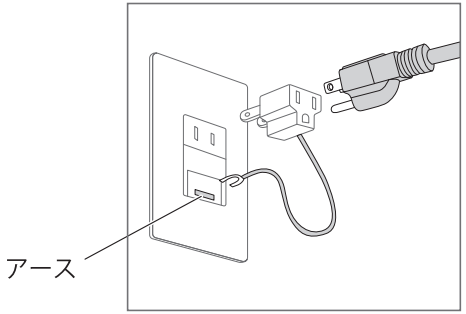
⚠ 警告	バッテリーを 0℃以下で充電しないでください。
	充電中の充電器は高温になります。可燃物をそばに置かず、やけどに注意してください。
	純正のバッテリー充電器以外を使用した場合、漏れ、過熱煙、火災または爆発のおそれがあります。



バッテリーの使用とメンテナンス

コンセントに接続する

NQi GT のバッテリーは 3P プラグになります。
アースコードを接続してご使用ください。

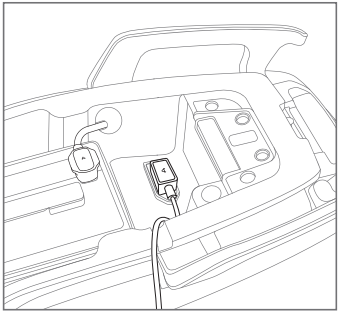


バッテリー充電手順

NQi GT は、車両充電と外部充電の 2 つの充電モードがあります。

車両充電モード

充電器をシート下ボックスの後部にある車両充電インターフェイスに接続すると、NQi GT バッテリーを 2 台同時に充電できます。
また、充電器は車両の単一のバッテリーに接続して充電できます。
NQi GT の充電インジケータが点灯し、充電の進行状況が表示されます。
※車両からバッテリーを 2 台同時に充電する場合、通常より充電時間が長くなります。

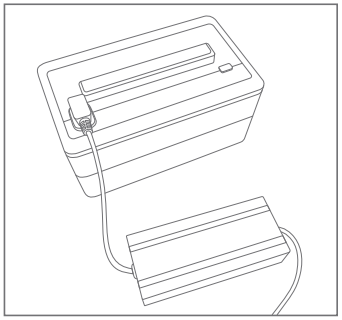


車両から直接充電する場合

バッテリーの使用とメンテナンス

外部充電モード

NQi GT のバッテリーを取り出し、充電器を個別に接続して外部充電をします。
充電中はバッテリーインジケータが点灯し、充電プロセスが表示されます。

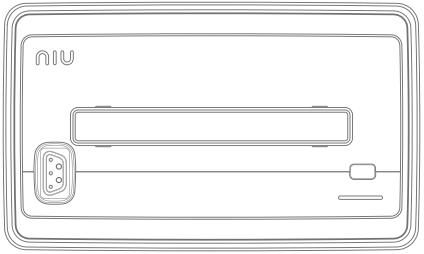


バッテリーを取り外して
充電する場合

バッテリーインジケータライトの指示

①充電状態では、現在のバッテリー電力が表示されます。バッテリーが完全に充電されると、すべてのインジケータが常にオンになり、点滅しなくなります。

② 非充電状態で電源表示ボタンを押すと、インジケータは通常状態のバッテリー電力を表示します。



※バッテリーが 20%未満の場合、充電を促すためにインジケーターが 3 回点滅します。
※インジケータが点滅している場合、バッテリーが故障していることを意味します。
※販売店にご相談ください。

⚠ 警告

- ユーザーマニュアルに従って操作を行ってください。
- 必ず NQi GT 純正の充電器を使用してください。
- バッテリーの種類と入力電圧に注意してください。また、充電中は充分な換気が必要です。
- 充電は通気性の良い環境で行う必要があります。閉鎖された空間、極端な低温や高温、また、トランクやテールボックス等では充電しないでください。
- 充電は充電器を電源に接続してからバッテリーに接続してください。充電後は電源を切った後に、バッテリーを取り外してください。
- フル充電後、緑色のライトが点灯した場合は電源を繋いだままにせず、すみやかに電源を切ってください。
- 充電中に信号灯に異常がある場合、異臭がある場合、または充電器が過充電されている場合は直ちに充電を中止して、充電器の確認または交換を行ってください。
- 充電器を使用後保管する場合は、異物、特に水やその他液体を避けショートに注意してください。充電器をスクーターに乗せたまま、振動にさらさないでください。
- 充電器の部品を自分で分解または交換しないでください。

⚠ 注意

- 12 時間経ってもバッテリーを完全に充電できない場合は、充電を停止して販売店に連絡してください。
- バッテリーの性能を最大限保つには、バッテリー容量を 20%から 80%の範囲で保ってください。
- バッテリーは低温になると容量を失います。- 10°C では 70%、0 ℃では 85%、25℃では 100%です。
- 保管のための最も良い容量は 50%です。10%未満または 90% 以上での長期保管は電池容量を失います。
- 1 週間以上保管する場合はスクーターから取り出してください。この時、バッテリーの温度を 0℃から 20℃に保ち、容量は 30～70%にします。2 ヶ月に 1 回の充電と放電を繰り返すことで、バッテリー容量の損失を最小限に抑えます。バッテリーの故障が誤操作または適切なメンテナンスの欠如によるものの場合は、保証の適用外となります。
- 落下をするとバッテリーの内部に制御できない損傷を与えたり、液漏れ、発煙、発熱、または爆発を引き起こす可能性があります。

運行前点検

乗車前に以下の詳細を確認してください。

チェックポイント	説明
ハンドル周り	1 . 取り付けが緩んでいないか 2 . ハンドル操作が自由に行えるか 3 . アクスルシャフトの緩みがないか
ブレーキ	1 . ブレーキレバーの遊び（5 ㎜～ 9 ㎜）
タイヤ	1 . タイヤの空気圧 (F/200kPa , R/225kPa) 2 . タイヤの溝は適正か 3 . 亀裂や開口部がないか
バッテリー	移動に必要なバッテリーの容量は充分か
ライト	以下、全てのライトの確認 ・ハイビーム / ロービーム　・ブレーキライト　・方向指示器　・その他
ホーン	ホーンが機能するか

運行前点検

ブレーキの注意点

・ブレーキをかける前に、スクーターが直立になるよう調整してください。
・タイヤがロックされ、スクーターが過度の制動力に起因するステアリング能力を失った場合は、ブレーキレバーのグリップを緩めると、タイヤが再びグリップし、スクーターが安定します。
・滑りやすい路面では前後の制動力の比を 1：1 程度にします。

⚠ 注意	安全のため、制限速度を超えないようにしてください。下り坂を走行する際は、ブレーキを静かに使用して安全な速度を維持してください。
⚠ 警告	フロントブレーキのみまたは、リアブレーキのみを使用すると、グリップやコントロールが損失する可能性があるため大変危険です。 湿った滑りやすい道やコーナーの周りを走行する際は、ライダーは大きな危険にさらされるため、注意が必要です。

メンテナンスと修理

長期間使用されていないスクーターであっても、定期的にスクーターをチェックしてメンテナンスすることを推奨いたします。

定期メンテナンス

購入後 1 か月または走行距離 1000km で、スクーターの点検することを推奨いたします。
全体的な点検とメンテナンスはその後 6 カ月ごとまたは 3000km ごとに実施することを推奨いたします。

毎日のメンテナンス

チェック中に問題が発生した場合は、本ユーザーマニュアルを確認するか販売店にご相談ください。

洗車

スクーターの洗浄には中性洗剤と水を使用してください。
傷防止のため、洗浄後の拭き上げは柔らかい布を使用してください。

⚠ 注意

スクーターの過負荷または荒れた路面や上り坂・下り坂で頻繁に使用される場合は、保守サイクルを短くする必要があります。品質を保証し、耐用年数を長くするには、NQi GT 純正の部品を使用する必要があります。

⚠ 警告

- 修理または調整ができない場合は、安全のために販売店の保守点検を受けるようにしてください。走行する際は、トラブルを避けるため滑らかな路面で走行してください。乗車中にスクーターを修理する必要がある場合は、交通に注意してください。
- バッテリーコンパートメントの周りを洗うために高圧洗浄機を使用しないでください。
  特に充電器、コントローラー、およびその他の部品が取り付けられているリアインナーマッドガードを洗浄しないでください。スクーターの充電ポートが濡れている場合は、完全に乾くまで接続や充電をしないでください。

メンテナンスと修理

短期保管

①スクーターは平坦で安定性があり、換気の良い乾燥した場所に保管してください。
②バッテリーを 50%まで充電してから、保管してください。
③劣化を避けるため、直射日光や雨水のかからないように、カバーを掛けてください。

長期保管

①バッテリーの寿命を延ばすために、2 ヶ月に 1 回、充電と放電を行ってください。
②長期保管後はバッテリーを 100%満充電してください。
③すべての部品を慎重にチェックし、乗車前に問題がないことを確認してください。
　何か問題がある場合は、点検または修理のためにスクーターを販売店に持ち込んでください。

⚠ 警告
長期保管の場合は、バッテリーをスクーターから取り出してください。

定期メンテナンスチェックリスト

定期的な安全性と性能チェック	ブレーキ
	ライト
	ホーン
	電気部品
	タイヤ
構造チェック	潤滑
	ホイールベアリング
	ショックアブソーバー
	サイドスタンド
	ステアリングベアリング
主要部品	バッテリー
	メインワイヤリングハーネス
	コントロールシステム

トラブルシューティングリスト

故障内容	原因	トラブルシューティング
電源が入らない	1. バッテリーが不足している 2. 故障コードが表示される	1. バッテリーを充電する 2. 販売店に連絡し点検する
キーをＯＮにしてアクセルを回してもモーターが回転しない	1. バッテリーの電圧不足 2. ブレーキレバーを引くと電源が切れる 3. パーキングモードが解除されない	1. バッテリーを充電する 2. アクセルを開けるとき、ブレーキレバーを引っ張らない 3. サイドスタンドを収納し、駐車モードを解除する
バッテリーが充電できない	1. 正しくプラグが接続されていない 2. バッテリーの温度が高すぎるまたは低すぎる	1. プラグが緩んでないか確認する 2. 正常な温度になるまで待つ
速度が出ないまたは距離が伸びない	バッテリーの残量が少ない	バッテリーを充電し、プラグが正しく接続されているまたは、充電器が損傷していないか確認する
	タイヤの空気圧不足	タイヤに異常がないか確認する
	頻繁にブレーキをかけている	負荷をかけない良い乗車の習慣を身に付ける
	電池の劣化、容量損失	バッテリーを交換する
	低温による電池容量の低下	常温の状態でバッテリーを充電する
乗車中に突然停止する	バッテリーが不足している	バッテリーを充電する
	メーターパネルの故障コードを参照して、障害原因を特定する。本ユーザーマニュアルに記載されているトラブルシューティング方法が機能しない場合は、販売店にお問い合わせください。	

トラブルシューティングリスト

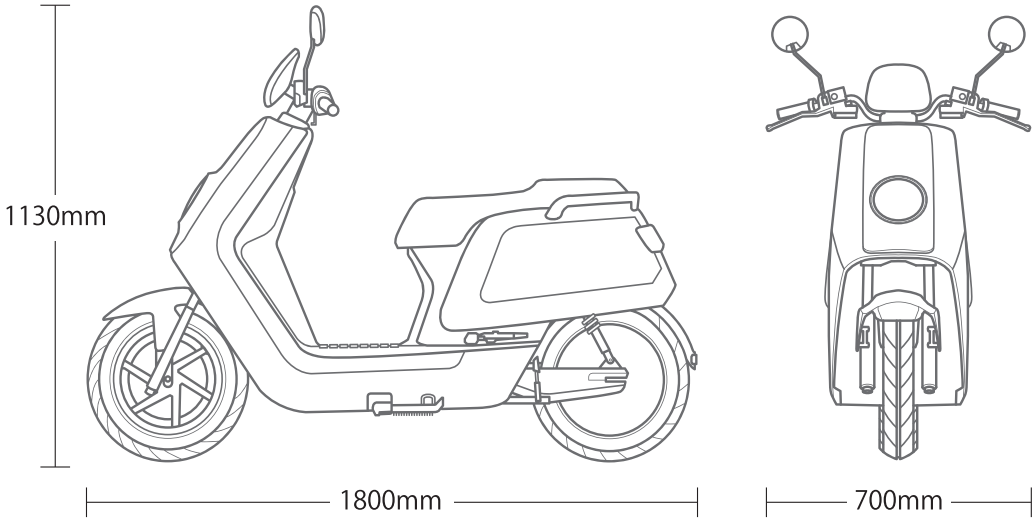
故障コード	原因	トラブルシューティング
00	通信障害またはメーター故障	1. バッテリーを取り外し、30秒後に再接続する 2. 接続が緩んでいないか確認する 3. 販売店に連絡し点検する
10	モーターロック	スクーターを停止し、後で再起動する
11	低電圧 / 高電圧	スクーターを停止し、後で再起動する
12	過電流	販売店に連絡し点検する
13	過熱	スクーターを停止し、後で再起動する
20	モーター過熱	スクーターを停止し、冷めたら再起動する
30	バッテリー過充電	コードが消えるまでヘッドライトとハザードライトを点灯させて放電する
31	過電流充電	バッテリーの充電を止め、充電器が故障していないか確認する
32	低温で充電する	通常の動作温度に戻るまで電池を屋内に入れる
60	SIMカード認識失敗	販売店に連絡し点検する
62	GPSモジュール故障	
63	GPSアンテナ短絡	
64	GPSアンテナ断線	
65	ECU SNが欠落している/正しくない	

トラブルシューティングリスト

故障コード	原因	トラブルシューティング
67	SIMカードの未払い / 無効化 / 信号強度が低い	販売店に連絡し点検する
99	電子部品通信不良	
110	FOCコントローラー不良	
111	1. スクーターロック 2. FOCコントローラー検証失敗	1. リモコンのロック解除ボタンを押します。 2. 販売店に連絡し点検してください。
120	モーター故障	販売店に連絡し点検する
130	バッテリー過放電	バッテリーを充電する
131	過電流放電	スクーターを停止し、後で再起動する
132	バッテリーの過熱	乗車を止めてバッテリーを冷ます
133	バッテリーの低温動作	動作温度に達したら、バッテリーを充電する
140	スロットル不良	スロットルの配線を確認するか、販売店に連絡し点検する
161	スクーターはリモコンによって ロックされています	販売店に連絡し点検する
190	コントローラー通信不良	
191	BMS通信不良	

製品仕様

基本仕様			
車体重量	109kg	最大登坂角度	15度
定格電圧	60V	最高速度	SPORTモード：70km/h DYNAMICモード：45km/h E-SAVEモード：20km/h
最大負荷	259kg	制動距離	≦4.5m(30km/h)
乗車定員	1名または2名		



製品仕様

フレーム	
フロントダンパー	オイルショックアブソーバー
リヤダンパー	オイルショックアブソーバー
フロントタイヤ仕様	90 / 90 - 12 Rim : 2.15×12
リヤタイヤ仕様	120 / 70 - 12 Rim : 3.50×12
ブレーキシステム	コンビネーションブレーキシステム
最低地上高	145mm
シート高	740mm

バッテリーシステム	
電圧	60V
容量	35Ah*2
標準充電電流	5A*2
最大放電電流	35A*2

製品仕様

パワーシステム	
モーター	Tailored Motor by Bosch GmbH
モーターコントロール	FOC Vector Control
定格出力	1000W
FOCコントローラー最大電流	70A

エレクトリカルシステム	
ヘッドライト	12V LED
ウインカー	12V LED
テールライト	12V LED
ブレーキライト	12V LED
メーターパネル	12V LCD
セントラルコントロールユニット	12V
USBチャージ	5V / 1A

問い合わせ

バイクについてのお問合せ・ご相談は取扱店にお気軽にご連絡ください。

取扱店

TEL

■ 製品について

技術的なお問合せ先：XEAM ショップ (福岡篠栗)

〒811-2405 福岡県糟屋郡篠栗町篠栗 3754-1
TEL : 092-410-0427
受付時間 : 午前9:00～12:00 / 午後13:00～18:00
年中無休※年末年始は除く
MAIL : info_xeam@mssjapan.jp (24 時間受付)

■ 販売元について

企画開発元：株式会社 MS ソリューションズ

〒812-0038
福岡市博多区祇園町７番20号 博多祇園センタープレイス 9F
TEL：0120-15-8195　FAX:092-262-7419
受付時間：11:00~19:30 (年中無休)※年末年始は除く
MAIL：info_xeam@mssjapan.jp

保証書

製品保証について

保証書に記載の対象車両の保証部位に、材料上もしくは製造上の不具合等による故障が発生した場合、無償で修復させていただきます。なお、弊社の指示、承諾を得ずに改造等を行った車両については全て保証対象外とさせていただきます。
※一般的な使用用途外（レース場での使用等）についても保証対象外とさせていただきます。

保証対象部品… フレーム・フロントフォーク・スイングアーム・ホイール・リヤサスペンション・ブレーキ・ステアリング・電動機・コントローラー・走行用バッテリー・その他メーカーが定めた主要部品。

保証適用外の範囲… 外装部品・シート・消耗部品（ブレーキパッド・ブレーキシュー・タイヤ・ゴム類・油脂類等・ブレーキディスク・電球類・ヒューズ等）・その他メーカーが定めた部品

車両の譲渡について詳しくは、WEB ページをご覧ください。https://www.xeam.jp/

1カ月点検について

新車登録または届け出をされてから 1 カ月を目安に行う点検です。この時期の点検は車両寿命に影響を与えることが多いことから、新車登録または届け出をされてから約 1 カ月（または 1000 ㎞時）の点検を弊社提携店舗にて実施いたします。直営店 (WEB 販売含む) にてご購入いただいた場合は無料にてお受けいたします。有効期間を過ぎますと、有料となります。（有効期間：新規登録もしくは届け出をしてから約 1 カ月もしくは有効期間内に走行距離が 1000 ㎞を超える場合は、1000 ㎞走行時となります。）

● 1 カ月の点検内容

- 電動機の低速及び加速の状態の点検
- リム及びホイールディスクの損傷の点検
- ブレーキの利き具合の点検
- ブレーキロッド及びケーブル類の緩み、がた、損傷等の点検
- タイヤの空気圧亀裂、損傷、異状摩耗、溝の深さ
- ブレーキホース及びパイプの液漏れ、損傷、取り付け状況の点検

定期点検について

2007 年 4 月 1 日より『道路運送車両法』の改正等により、2007 年 4 月 1 日以降の新車登録車より、以下の内容での定期点検内容に変更となりました。

- 6 カ月点検の廃止
- 走行距離加味点検とシビアコンディション点検の設定

点検の種類について

● 日常点検

法律に準じてユーザー様自身で日々の車両の状況、状態に応じてユーザー様自らが適宜行う点検です。走行前、充電前、洗車前等に行ってください。

- ブレーキ（前後）レバー（ペダル）の遊び、きき具合
- ブレーキ液の量（前）
- 灯火装置および方向指示器
- 低速・加速の状態
- タイヤの空気圧亀裂、損傷、異状摩耗、溝の深さ
- 運行において異状が認められた箇所

● シビアコンディション点検

通常使用より過酷な状況で車両を使用した場合、部品の劣化や破損等が通常より早く進行してしまうケースがございます。それを早期に発見するために整備士が 6 カ月ごとに行う点検のことをさします。シビアコンディションの目安、状況については以下の通りです。

- 坂道や山道の走行が全走行の30%以上を占めている。またそれに伴うブレーキの使用が多い。
- 走行距離が半年で 3000 ㎞以上である。
- 未舗装路や凸凹道の走行が全走行の 30%以上を占めている。

※整備点検等でご不明な点は販売店、取次店にご相談ください。

保証有効期間について

☑ **店舗でご購入**	：登録日から 1 年間または 5,000km 走行時
☑ **弊社 HP でご購入**	：出荷日から 1 年間または 5,000km 走行時
☑ **通販サイトでご購入**	：出荷日から 1 年間または 5,000km 走行時
☑ **景品・特典で譲渡**	：弊社卸し日から 1 年間または 5,000km 走行時

ご購入日　　年　　月　　日

※「景品・特典で譲渡」の場合は、卸し日を記載してください。

氏名　　様　　TEL　　-　　-

〒

住所

登録番号

車名　　車台番号

メンテナンス スケジュール

コンポーネント	作業内容	1,000km	4,000km または1年	7,000km または2年	10,000km または3年	13,000km または4年
全般	I	✓	✓	✓	✓	✓
ステアリング、操作系	I / E	✓	✓	✓	✓	✓
ステアリングベアリング	I / C / L				✓	✓
電気系統	I	✓	✓	✓	✓	✓
ライト、スイッチ	I / E	✓	✓	✓	✓	✓
サーキットブレーカー	I	✓	✓	✓	✓	✓
ホイールベアリング	I / E		✓	E	✓	E
ホイール、リム	I	✓	✓	✓	✓	✓
タイヤ	I*				✓	✓
ブレーキ全般	I / C / E	✓	✓	✓	✓	✓
ブレーキオイル	E			✓		
フロントフォーク	I	✓		✓		✓
リヤショックアブソーバー	I	✓		✓		✓
スロットル	I / L		✓	✓	✓	✓
メイン/サイドスタンド	I / C / E		✓	✓	✓	✓

I … Control (点検)　E … 交換　C … 清掃　L … 給油　*Check : 溝深さ / 空気圧

【 Controlについて 】

機能が正しいか確認してください。清掃や給油の指示があれば追加で行わなければなりません。エラーや欠陥が検出された場合は、修復する必要があります。

※運行前点検は上記の表に関わらず行う必要があります。

メンテナンス レコード

日付	年　　月　　日	走行距離	
ノート			
販売店			

1ヶ月点検整備記録簿（電動車）

二輪車						
	該当なし	／	交換	×	締付	T
	点検	✓	修理	△	清掃	C
	分解	○	調整	A	給油	L

● 参照事項
※1 各変速モードで作動させ、うなり音等の異音の有無を確認お願いいたします。
※2 ステム緩み止めナットの状態確認要。
※3 タイヤ溝深さ→1.6mm 以上
※4 タイヤ規定空気圧→250kpa

電動機点検

■ 本体
- ☐ 電動機の作動状態・異音の有無※1
- ／ 低速・加速の状態

ステアリング装置点検

■ ハンドル
- ☐ 操作具合

■ フロントフォーク
- ☐ 損傷
- ☐ ステアリングステムの取付状態※2
- ／ ステアリングステムの軸受け部のがた

電気・保安装置点検

■ 走行用バッテリー
- ☐ 本体の損傷・ターミナル部の緩み損傷の有無

■ スイッチ類
- ☐ 灯火装置・方向指示器の作用
- ☐ ホーン・ハンドルロック装置の作用
- ☐ 計器の作用

ブレーキ点検

■ ブレーキペダル及びブレーキレバー
- ☐ 遊び
- ☐ ブレーキのきき具合

■ ロッド及びケーブル類
- ☐ 緩み・がた・損傷

■ ホース及びパイプ
- ☐ 漏れ・損傷・取付状態

■ リザーバタンク（フロントブレーキ）
- ☐ ブレーキ液の量

足回り点検

■ ホイール
- ☐ タイヤの空気圧※3
- ☐ タイヤの亀裂・損傷の有無
- ☐ タイヤの溝の深さ・異常な磨耗※4
- ☐ ホイールのボルト・ナットの緩み

■ ショックアブソーバー
- ☐ 損傷・オイル漏れの有無

その他

- ☐ 外観樹脂パーツの損傷の有無

■ その他必要となった点検整備の内容及び主な交換部品／記事等

車両番号
初度登録年又は初年度検査年
車台番号
点検時の総走行距離
km
点検年月日
年　月　日
整備完了日
年　月　日
タイヤの溝の深さ
F　mm　R　mm
ブレーキパッド残量
F　mm　R　mm

点検又は整備を実施した者の氏名
印
住所
〒

定期点検整備記録簿（電動車）

二輪車						
	該当なし	／	交換	×	締付	T
	点検	✓	修理	△	清掃	C
	分解	○	調整	A	給油	L

● 6 ヵ月点検整備……
●12 ヵ月点検整備……＋
※納車時点検は 6 ヵ月点検に準ずる

電動機点検

■ 本体

- 電動機の作動状態・異音の有無
- 低速・加速の状態

ステアリング装置点検

■ ハンドル

- 操作具合

■ フロントフォーク

- 損傷
- ステアリングステムの取付状態
- ステアリングステムの軸受け部のがた

足回り点検

■ ホイール

- タイヤの空気圧
- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ・異常な磨耗
- ホイールのボルト・ナットの緩み
- フロントホイールベアリングのがた
- リヤホイールベアリングのがた

■ サスペンションアーム

- 連結部のがた・アームの損傷

■ ショックアブソーバー

- 損傷・オイル漏れの有無

その他

- フレームの緩み・損傷
- シャシ各部の給油脂状態

ブレーキ点検

■ ブレーキペダル及びブレーキレバー

- 遊び
- ブレーキのきき具合

■ ロッド及びケーブル類

- 緩み・がた・損傷

■ ホース及びパイプ

- 漏れ・損傷・取付状態

■ リザーバタンク

- ブレーキ液の量

■ マスタシリンダ・ホイールシリンダ及びディスクキャリパ

- 機能・磨耗・損傷

■ ブレーキドラム及びブレーキシュー

- ドラムとライニングのすき間
- シューの摺動部分・ライニングの磨耗

電気・保安装置点検

■ バッテリー

- 本体の損傷・ターミナル部の緩み損傷の有無

■ 電気配線

- 接続部の緩み損傷

■ スイッチ類

- 灯火装置・方向指示器の作用
- ホーン・ハンドルロック装置の作用
- 計器の作用

■ その他必要となった点検整備の内容及び主な交換部品 / 記事等

車両番号
初度登録年又は初年度検査年
車台番号
点検時の総走行距離
km
点検年月日
年　月　日
整備完了日
年　月　日
タイヤの溝の深さ
F　mm　R　mm
ブレーキパッド残量
F　mm　R　mm

点検又は整備を実施した者の氏名
印
住所
〒

定期点検整備記録簿（電動車）

二輪車						
	該当なし	／	交換	×	締付	T
	点検	✓	修理	△	清掃	C
	分解	○	調整	A	給油	L

● 6 ヵ月点検整備……
●12 ヵ月点検整備……＋
※納車時点検は 6 ヵ月点検に準ずる

電動機点検

■ 本体

- 電動機の作動状態・異音の有無
- 低速・加速の状態

ステアリング装置点検

■ ハンドル

- 操作具合

■ フロントフォーク

- 損傷
- ステアリングステムの取付状態
- ステアリングステムの軸受け部のがた

足回り点検

■ ホイール

- タイヤの空気圧
- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ・異常な磨耗
- ホイールのボルト・ナットの緩み
- フロントホイールベアリングのがた
- リヤホイールベアリングのがた

■ サスペンションアーム

- 連結部のがた・アームの損傷

■ ショックアブソーバー

- 損傷・オイル漏れの有無

その他

- フレームの緩み・損傷
- シャシ各部の給油脂状態

ブレーキ点検

■ ブレーキペダル及びブレーキレバー

- 遊び
- ブレーキのきき具合

■ ロッド及びケーブル類

- 緩み・がた・損傷

■ ホース及びパイプ

- 漏れ・損傷・取付状態

■ リザーバタンク

- ブレーキ液の量

■ マスタシリンダ・ホイールシリンダ及びディスクキャリパ

- 機能・磨耗・損傷

■ ブレーキドラム及びブレーキシュー

- ドラムとライニングのすき間
- シューの摺動部分・ライニングの磨耗

電気・保安装置点検

■ バッテリー

- 本体の損傷・ターミナル部の緩み損傷の有無

■ 電気配線

- 接続部の緩み損傷

■ スイッチ類

- 灯火装置・方向指示器の作用
- ホーン・ハンドルロック装置の作用
- 計器の作用

■ その他必要となった点検整備の内容及び主な交換部品 / 記事等

車両番号
初度登録年又は初年度検査年
車台番号
点検時の総走行距離
km
点検年月日
年　月　日
整備完了日
年　月　日
タイヤの溝の深さ
F　mm　R　mm
ブレーキパッド残量
F　mm　R　mm

点検又は整備を実施した者の氏名
印
住所
〒

定期点検整備記録簿（電動車）

二輪車						
	該当なし	／	交換	×	締付	T
	点検	✓	修理	△	清掃	C
	分解	○	調整	A	給油	L

● 6 ヵ月点検整備……
●12 ヵ月点検整備……＋
※納車時点検は 6 ヵ月点検に準ずる

電動機点検

■ 本体
- 電動機の作動状態・異音の有無
- 低速・加速の状態

ステアリング装置点検

■ ハンドル
- 操作具合

■ フロントフォーク
- 損傷
- ステアリングステムの取付状態
- ステアリングステムの軸受け部のがた

足回り点検

■ ホイール
- タイヤの空気圧
- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ・異常な磨耗
- ホイールのボルト・ナットの緩み
- フロントホイールベアリングのがた
- リヤホイールベアリングのがた

■ サスペンションアーム
- 連結部のがた・アームの損傷

■ ショックアブソーバー
- 損傷・オイル漏れの有無

その他

- フレームの緩み・損傷
- シャシ各部の給油脂状態

ブレーキ点検

■ ブレーキペダル及びブレーキレバー
- 遊び
- ブレーキのきき具合

■ ロッド及びケーブル類
- 緩み・がた・損傷

■ ホース及びパイプ
- 漏れ・損傷・取付状態

■ リザーバタンク
- ブレーキ液の量

■ マスタシリンダ・ホイールシリンダ及びディスクキャリパ
- 機能・磨耗・損傷

■ ブレーキドラム及びブレーキシュー
- ドラムとライニングのすき間
- シューの摺動部分・ライニングの磨耗

電気・保安装置点検

■ バッテリー
- 本体の損傷・ターミナル部の緩み損傷の有無

■ 電気配線
- 接続部の緩み損傷

■ スイッチ類
- 灯火装置・方向指示器の作用
- ホーン・ハンドルロック装置の作用
- 計器の作用

■ その他必要となった点検整備の内容及び主な交換部品 / 記事等

車両番号
初度登録年又は初年度検査年
車台番号
点検時の総走行距離
km
点検年月日
年　月　日
整備完了日
年　月　日
タイヤの溝の深さ
F　mm　R　mm
ブレーキパッド残量
F　mm　R　mm

点検又は整備を実施した者の氏名
印
住所
〒

定期点検整備記録簿（電動車）

二輪車						
	該当なし	／	交換	×	締付	T
	点検	✓	修理	△	清掃	C
	分解	○	調整	A	給油	L

● 6 ヵ月点検整備……
●12 ヵ月点検整備……＋
※納車時点検は 6 ヵ月点検に準ずる

車両番号
初度登録年又は初年度検査年
車台番号
点検時の総走行距離
km
点検年月日
年　月　日
整備完了日
年　月　日
タイヤの溝の深さ
F　mm　R　mm
ブレーキパッド残量
F　mm　R　mm

電動機点検

■ 本体

- 電動機の作動状態・異音の有無
- 低速・加速の状態

ステアリング装置点検

■ ハンドル

- 操作具合

■ フロントフォーク

- 損傷
- ステアリングステムの取付状態
- ステアリングステムの軸受け部のがた

足回り点検

■ ホイール

- タイヤの空気圧
- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ・異常な磨耗
- ホイールのボルト・ナットの緩み
- フロントホイールベアリングのがた
- リヤホイールベアリングのがた

■ サスペンションアーム

- 連結部のがた・アームの損傷

■ ショックアブソーバー

- 損傷・オイル漏れの有無

その他

- フレームの緩み・損傷
- シャシ各部の給油脂状態

ブレーキ点検

■ ブレーキペダル及びブレーキレバー

- 遊び
- ブレーキのきき具合

■ ロッド及びケーブル類

- 緩み・がた・損傷

■ ホース及びパイプ

- 漏れ・損傷・取付状態

■ リザーバタンク

- ブレーキ液の量

■ マスタシリンダ・ホイールシリンダ及びディスクキャリパ

- 機能・磨耗・損傷

■ ブレーキドラム及びブレーキシュー

- ドラムとライニングのすき間
- シューの摺動部分・ライニングの磨耗

電気・保安装置点検

■ バッテリー

- 本体の損傷・ターミナル部の緩み損傷の有無

■ 電気配線

- 接続部の緩み損傷

■ スイッチ類

- 灯火装置・方向指示器の作用
- ホーン・ハンドルロック装置の作用
- 計器の作用

■ その他必要となった点検整備の内容及び主な交換部品 / 記事等

点検又は整備を実施した者の氏名
印
住所
〒

定期点検整備記録簿（電動車）

二輪車						
	該当なし	／	交換	×	締付	T
	点検	✓	修理	△	清掃	C
	分解	○	調整	A	給油	L

● 6 ヵ月点検整備……
●12 ヵ月点検整備……＋
※納車時点検は 6 ヵ月点検に準ずる

電動機点検

■ 本体
- 電動機の作動状態・異音の有無
- 低速・加速の状態

ステアリング装置点検

■ ハンドル
- 操作具合

■ フロントフォーク
- 損傷
- ステアリングステムの取付状態
- ステアリングステムの軸受け部のがた

足回り点検

■ ホイール
- タイヤの空気圧
- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ・異常な磨耗
- ホイールのボルト・ナットの緩み
- フロントホイールベアリングのがた
- リヤホイールベアリングのがた

■ サスペンションアーム
- 連結部のがた・アームの損傷

■ ショックアブソーバー
- 損傷・オイル漏れの有無

その他

- フレームの緩み・損傷
- シャシ各部の給油脂状態

ブレーキ点検

■ ブレーキペダル及びブレーキレバー
- 遊び
- ブレーキのきき具合

■ ロッド及びケーブル類
- 緩み・がた・損傷

■ ホース及びパイプ
- 漏れ・損傷・取付状態

■ リザーバタンク
- ブレーキ液の量

■ マスタシリンダ・ホイールシリンダ及びディスクキャリパ
- 機能・磨耗・損傷

■ ブレーキドラム及びブレーキシュー
- ドラムとライニングのすき間
- シューの摺動部分・ライニングの磨耗

電気・保安装置点検

■ バッテリー
- 本体の損傷・ターミナル部の緩み損傷の有無

■ 電気配線
- 接続部の緩み損傷

■ スイッチ類
- 灯火装置・方向指示器の作用
- ホーン・ハンドルロック装置の作用
- 計器の作用

■ その他必要となった点検整備の内容及び主な交換部品 / 記事等

車両番号
初度登録年又は初年度検査年
車台番号
点検時の総走行距離
km
点検年月日
年　月　日
整備完了日
年　月　日
タイヤの溝の深さ
F　mm　R　mm
ブレーキパッド残量
F　mm　R　mm

点検又は整備を実施した者の氏名
印
住所
〒

定期点検整備記録簿（電動車）

二輪車						
	該当なし	／	交換	×	締付	T
	点検	✓	修理	△	清掃	C
	分解	○	調整	A	給油	L

● 6 ヵ月点検整備……
●12 ヵ月点検整備……＋
※納車時点検は 6 ヵ月点検に準ずる

電動機点検

■ 本体
- 電動機の作動状態・異音の有無
- 低速・加速の状態

ステアリング装置点検

■ ハンドル
- 操作具合

■ フロントフォーク
- 損傷
- ステアリングステムの取付状態
- ステアリングステムの軸受け部のがた

足回り点検

■ ホイール
- タイヤの空気圧
- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ・異常な磨耗
- ホイールのボルト・ナットの緩み
- フロントホイールベアリングのがた
- リヤホイールベアリングのがた

■ サスペンションアーム
- 連結部のがた・アームの損傷

■ ショックアブソーバー
- 損傷・オイル漏れの有無

その他

- フレームの緩み・損傷
- シャシ各部の給油脂状態

ブレーキ点検

■ ブレーキペダル及びブレーキレバー
- 遊び
- ブレーキのきき具合

■ ロッド及びケーブル類
- 緩み・がた・損傷

■ ホース及びパイプ
- 漏れ・損傷・取付状態

■ リザーバタンク
- ブレーキ液の量

■ マスタシリンダ・ホイールシリンダ及びディスクキャリパ
- 機能・磨耗・損傷

■ ブレーキドラム及びブレーキシュー
- ドラムとライニングのすき間
- シューの摺動部分・ライニングの磨耗

電気・保安装置点検

■ バッテリー
- 本体の損傷・ターミナル部の緩み損傷の有無

■ 電気配線
- 接続部の緩み損傷

■ スイッチ類
- 灯火装置・方向指示器の作用
- ホーン・ハンドルロック装置の作用
- 計器の作用

■ その他必要となった点検整備の内容及び主な交換部品 / 記事等

車両番号
初度登録年又は初年度検査年
車台番号
点検時の総走行距離
km
点検年月日
年　月　日
整備完了日
年　月　日
タイヤの溝の深さ
F　mm　R　mm
ブレーキパッド残量
F　mm　R　mm

点検又は整備を実施した者の氏名
印
住所
〒

定期点検整備記録簿（電動車）

二輪車						
	該当なし	／	交換	×	締付	T
	点検	✓	修理	△	清掃	C
	分解	○	調整	A	給油	L

● 6 ヵ月点検整備……
●12 ヵ月点検整備…… ＋
※納車時点検は 6 ヵ月点検に準ずる

電動機点検

■ 本体
- 電動機の作動状態・異音の有無
- 低速・加速の状態

ステアリング装置点検

■ ハンドル
- 操作具合

■ フロントフォーク
- 損傷
- ステアリングステムの取付状態
- ステアリングステムの軸受け部のがた

足回り点検

■ ホイール
- タイヤの空気圧
- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ・異常な磨耗
- ホイールのボルト・ナットの緩み
- フロントホイールベアリングのがた
- リヤホイールベアリングのがた

■ サスペンションアーム
- 連結部のがた・アームの損傷

■ ショックアブソーバー
- 損傷・オイル漏れの有無

その他

- フレームの緩み・損傷
- シャシ各部の給油脂状態

ブレーキ点検

■ ブレーキペダル及びブレーキレバー
- 遊び
- ブレーキのきき具合

■ ロッド及びケーブル類
- 緩み・がた・損傷

■ ホース及びパイプ
- 漏れ・損傷・取付状態

■ リザーバタンク
- ブレーキ液の量

■ マスタシリンダ・ホイールシリンダ及びディスクキャリパ
- 機能・磨耗・損傷

■ ブレーキドラム及びブレーキシュー
- ドラムとライニングのすき間
- シューの摺動部分・ライニングの磨耗

電気・保安装置点検

■ バッテリー
- 本体の損傷・ターミナル部の緩み損傷の有無

■ 電気配線
- 接続部の緩み損傷

■ スイッチ類
- 灯火装置・方向指示器の作用
- ホーン・ハンドルロック装置の作用
- 計器の作用

■ その他必要となった点検整備の内容及び主な交換部品 / 記事等

車両番号
初度登録年又は初年度検査年
車台番号
点検時の総走行距離
km
点検年月日
年　月　日
整備完了日
年　月　日
タイヤの溝の深さ
F　mm　R　mm
ブレーキパッド残量
F　mm　R　mm

点検又は整備を実施した者の氏名
印
住所
〒

定期点検整備記録簿（電動車）

二輪車						
	該当なし	／	交換	×	締付	T
	点検	✓	修理	△	清掃	C
	分解	○	調整	A	給油	L

● 6 ヵ月点検整備……
●12 ヵ月点検整備…… ＋
※納車時点検は 6 ヵ月点検に準ずる

電動機点検

■ 本体
- 電動機の作動状態・異音の有無
- 低速・加速の状態

ステアリング装置点検

■ ハンドル
- 操作具合

■ フロントフォーク
- 損傷
- ステアリングステムの取付状態
- ステアリングステムの軸受け部のがた

足回り点検

■ ホイール
- タイヤの空気圧
- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ・異常な磨耗
- ホイールのボルト・ナットの緩み
- フロントホイールベアリングのがた
- リヤホイールベアリングのがた

■ サスペンションアーム
- 連結部のがた・アームの損傷

■ ショックアブソーバー
- 損傷・オイル漏れの有無

その他

- フレームの緩み・損傷
- シャシ各部の給油脂状態

ブレーキ点検

■ ブレーキペダル及びブレーキレバー
- 遊び
- ブレーキのきき具合

■ ロッド及びケーブル類
- 緩み・がた・損傷

■ ホース及びパイプ
- 漏れ・損傷・取付状態

■ リザーバタンク
- ブレーキ液の量

■ マスタシリンダ・ホイールシリンダ及びディスクキャリパ
- 機能・磨耗・損傷

■ ブレーキドラム及びブレーキシュー
- ドラムとライニングのすき間
- シューの摺動部分・ライニングの磨耗

電気・保安装置点検

■ バッテリー
- 本体の損傷・ターミナル部の緩み損傷の有無

■ 電気配線
- 接続部の緩み損傷

■ スイッチ類
- 灯火装置・方向指示器の作用
- ホーン・ハンドルロック装置の作用
- 計器の作用

■ その他必要となった点検整備の内容及び主な交換部品 / 記事等

車両番号
初度登録年又は初年度検査年
車台番号
点検時の総走行距離
km
点検年月日
年　月　日
整備完了日
年　月　日
タイヤの溝の深さ
F　mm　R　mm
ブレーキパッド残量
F　mm　R　mm

点検又は整備を実施した者の氏名
印
住所
〒

定期点検整備記録簿（電動車）

二輪車						
	該当なし	／	交換	×	締付	T
	点検	✓	修理	△	清掃	C
	分解	○	調整	A	給油	L

● 6 ヵ月点検整備……
●12 ヵ月点検整備……＋
※納車時点検は 6 ヵ月点検に準ずる

電動機点検

■ 本体
- 電動機の作動状態・異音の有無
- 低速・加速の状態

ステアリング装置点検

■ ハンドル
- 操作具合

■ フロントフォーク
- 損傷
- ステアリングステムの取付状態
- ステアリングステムの軸受け部のがた

足回り点検

■ ホイール
- タイヤの空気圧
- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ・異常な磨耗
- ホイールのボルト・ナットの緩み
- フロントホイールベアリングのがた
- リヤホイールベアリングのがた

■ サスペンションアーム
- 連結部のがた・アームの損傷

■ ショックアブソーバー
- 損傷・オイル漏れの有無

その他

- フレームの緩み・損傷
- シャシ各部の給油脂状態

ブレーキ点検

■ ブレーキペダル及びブレーキレバー
- 遊び
- ブレーキのきき具合

■ ロッド及びケーブル類
- 緩み・がた・損傷

■ ホース及びパイプ
- 漏れ・損傷・取付状態

■ リザーバタンク
- ブレーキ液の量

■ マスタシリンダ・ホイールシリンダ及びディスクキャリパ
- 機能・磨耗・損傷

■ ブレーキドラム及びブレーキシュー
- ドラムとライニングのすき間
- シューの摺動部分・ライニングの磨耗

電気・保安装置点検

■ バッテリー
- 本体の損傷・ターミナル部の緩み損傷の有無

■ 電気配線
- 接続部の緩み損傷

■ スイッチ類
- 灯火装置・方向指示器の作用
- ホーン・ハンドルロック装置の作用
- 計器の作用

■ その他必要となった点検整備の内容及び主な交換部品 / 記事等

車両番号
初度登録年又は初年度検査年
車台番号
点検時の総走行距離
km
点検年月日
年　月　日
整備完了日
年　月　日
タイヤの溝の深さ
F　mm　R　mm
ブレーキパッド残量
F　mm　R　mm

点検又は整備を実施した者の氏名
印
住所
〒

企画販売元：株式会社　MS ソリューションズ
MAIL：info_xeam@mssjapan.jp（24 時間受付 ）

最新の取扱説明書はこちらをご覧ください。
https://www.xeam.jp/niu/ngt/